

①事業名	【49】グローバルCOEプログラム	
②主管課及び関係課(課長名)	(主管課) 高等教育局大学振興課(課長: 中岡 司)	
③施策目標及び達成目標	<p>施策目標3-1 大学などにおける教育研究の質の向上 達成目標3-1-3 国公立大学を通じた競争的環境の下で、各大学の個性や特色を活かした世界的な研究教育拠点を形成し、国際競争力のある世界最高水準の大学づくりを推進する。</p> <p>(関連) 施策目標5-1 科学技術関係人材の育成、確保、活躍の促進 達成目標5-1-4 大学院を中心に、各大学の個性・特色を踏まえた科学技術関係人材の育成機能の強化を図る。 施策目標5-2 科学の発展と絶えざるイノベーションの創出 達成目標5-2-1 競争的環境を醸成することにより研究活動を活性化させるため、文部科学省における競争的資金及び間接経費の拡充を図る。</p>	
④事業の概要	<p>【対象】国公立大学を通じて、 【手段】21世紀COEプログラムの成果、国際性などを踏まえた多面的な視点による第三者評価に基づき、世界的な研究教育拠点の形成を重点的に支援し、 【意図】国際競争力ある世界最高水準の大学づくりを推進する。</p>	
⑤予算額及び事業開始年度	<p>平成19年度概算要求額: 23,087百万円 事業開始年度: 平成19年度</p>	
⑥広報計画	<p>【ターゲット】一般国民、特に国内外の大学関係者。 【メッセージ】採択された拠点の概要を、広く情報提供することを通じて、我が国の大学の教育研究活動の理解の増進を図る。 【媒体】採択教育プログラムの概要をホームページへ掲載。 【タイミング】採択決定後速やかにホームページに掲載、適宜更新。</p>	
⑦事業開始時において得ようとした効果	〔拡充事業の場合のみ記入〕	
⑧得られた効果	〔拡充事業の場合のみ記入〕	
⑨得ようとする効果及び上位目標との関係	<p>【得ようとする効果】 ①学長を中心とした全学的観点からの大学づくりなど大学改革の推進 ②優れた研究者養成機能の強化 ③独創的・先端的研究の水準の向上</p> <p>【上位基本目標・達成目標との関係】 本事業の効果をあげるにより、卓越した国際的教育研究拠点の実施が期待される拠点への重点的支援が図られ、ひいては達成目標(基本目標)3-1-3にある「国際競争力のある世界最高水準の大学づくり」という成果に結びつくものと考えられる。</p>	<p>⑩達成年度 平成23年度</p>
⑪必要性	<p>① グローバル化が一層進展し、国際競争が激化する今後の社会においては、国際競争力のある大学づくりをさらに推進し、世界に伍する教育研究を積極的に展開することが緊迫の課題である。</p> <p>② そのため、平成14年度から実施している「21世紀COEプログラム」を充実・強化した形で継承していくことが、中央教育審議会答申「新時代の大学院教育」(平成17年9月)や第3期科学技術基本計画(平成18年3月閣議決定)においても求められており、引き続き国が卓越した教育研究拠点に対して支援を行っていくことの必要性が指摘されている。</p> <p>③ 具体的には、「21世紀COEプログラム」の基本的な考え方を継承しつつ、 ・ 本事業の目的が世界水準の教育研究拠点の形成である点を踏まえ、支援の一層の重点化 ・ 国内外の優れた研究機関との連携を促進するため、現行COEでは申請を認めてい</p>	

	<p>なかった他大学と連携した取り組みも対象に追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際的にも広く認知され、高い評価を受けることができる拠点を形成するため、外国人研究者を審査委員に加えるなど、審査・評価の国際化 ・ 国際的な場でリーダーシップをとれる研究者の育成機能の強化を図るため、大学院学生等若手研究者の教育研究環境の整備することとしている。 <p>④ これらのことから本事業の施策目標の達成に対する貢献度は高く、本事業を実施することが妥当と考えられる。</p>
⑫効率性	<p>国公立大学を通じ、すべての学問分野を範囲として、世界最高水準の卓越した教育研究の実施が期待される拠点を採択し、財政支援を行うことにより、競争的な環境の整備や、重点的支援による資源配分の効率化を図れる。</p>
⑬想定できる代替手段との比較考量	<p>「ポスト21世紀COEプログラム（仮称）」は、「21世紀COEプログラム」の成果を踏まえ、国公立大学を通じた競争的環境の下で、第三者評価に基づき資金を重点配分することにより、世界的な教育研究拠点の形成を支援するものであり、基盤的経費助成またはその他の競争的研究資金ではこのような取り組みは行われていない。</p>
⑭有効性	<p>指標・参考指標</p> <p>教員や大学院学生の論文発表数、国内外の企業や研究機関との共同研究の件数、シンポジウムの実施件数、大学院学生や若手研究者の雇用状況、大学院学生の就職状況等の指標により、教育研究水準を評価する予定</p>
	<p>効果の把握の仕方</p> <p>第三者評価委員会による評価の状況 大学や採択された拠点に対するアンケート調査 等</p>
	<p>得ようとする効果の達成見込み及びその判断根拠</p> <p>本事業は、第三者評価委員会（有識者・専門家等で構成されることを規定）において、本事業の政策目的の達成可能な事業に限定して採択し、重点支援することとしているため、この取り組みを通して、政策目標の達成は可能であると考えられる。</p>
⑮公平性、優先性	<p>[政策の特性に応じて、必要により評価]</p>
⑯評価に用いたデータ・情報・外部評価等	<p>中央教育審議会答申「新時代の大学院教育」及び第3期科学技術基本計画においても、また、21世紀COEプログラム委員会がとりまとめた「21世紀COEプログラム」検証結果報告書や「21世紀COEプログラム」に関する全大学長宛アンケートにおいても、ポスト21世紀COEプログラム事業の必要性が指摘されている。</p>
⑰備考	<p>○本事業に関係する審議会からの提言等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新時代の大学院教育 ー国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けてー」 (H18.9.5 中央教育審議会答申) ・「我が国の高等教育の将来像」(H17.1.28 中央教育審議会答申) ・第3期科学技術計画 (H18.3.28 閣議決定) ・大学院教育振興施策要綱 (H18.3 文部科学省) ・グローバル戦略 (H18.5 経済財政諮問会議) ・経済成長戦略大綱 (H18.6) ・平成19年度の科学技術に関する予算、人材等の資源配分の方針 (H17.6 総合科学技術会議) ・科学技術と社会という視点に立った人材養成を目指して (H16.7 科学技術・学術審議会人材委員会第三次提言) <p>○本事業については、第3期科学技術基本計画に「現在、国公立大学を通じた大学の構造改革の一環として、21世紀COEプログラムが展開されているが、この評価・検証を踏まえた上で重点化を図り、より充実・発展した形で更なる展開を図っていくことが適当である。」と記載されていることもあり、21世紀COEプログラムと同様、科学技術関係経費に相当すると考える。</p>

グローバルCOEプログラム(ポスト「21世紀COEプログラム」)

(新規)
平成19年度要求額 231億円

- ★「21世紀COEプログラム」の成果(大学改革・教育・研究)を踏まえ、
これまでの基本的な考え方を継承しつつ、さらに支援を充実し、飛躍的な発展を目指す
- ★中教審答申(「我が国の高等教育の将来像」(平成17年1月)、「新時代の大学院教育」(平成17年9月))を踏まえた大学改革を推進
- ★卓越した国際的教育研究拠点をより重点的に支援
274拠点(現行COE採択拠点数) ⇒ 150拠点程度(ポストCOE) 支援規模: 5千万~5億円/年
- ★新たな学問的ニーズに対応するため、学際・複合・新領域については、毎年公募
- ★全分野で新たに公募(現行COEの卓越した拠点は継続させつつ、新規性・将来性も考慮した多元的視点により審査)
- ★若手研究者や博士課程の学生が独立して研究に専念できる環境の整備や経済的支援の強化、国内外の優れた研究機関との連携や海外の優れた研究者の招聘促進
- ★国際競争力を評価するための審査・評価体制の強化(審査・評価に外国人研究者等を積極的に登用)

《審査の視点》

- ①教育研究活動実績や将来性
- ②拠点形成計画の内容(特に国際的であるという点を重視、**特色に応じたオンリーワンの教育研究活動**を世界に発信するなどの観点にも配慮)
- ③大学としての教育研究推進方策
- ④大学としての若手研究者(特に助教)支援体制

